

みんなで一緒にあらかわろう！（ARAKAWA TRANSFORMATION）

～官民連携による「流域治水」の取り組みをPRすることで流域のあらゆる関係者による防災減災の取り組みを後押し～

取組開始時期	令和3年2月	取組の カテゴリー	⑦ 災害対策・防災・減災	応募部門 (○を付ける)	PF会員間連携部門	○	一般部門
---------------	--------	----------------------	--------------	-------------------------	-----------	---	------

1. 団体名	国土交通省 荒川下流河川事務所	2. 連携先の 団体	◎荒川下流工事安全対策協議会 小名木川支部
---------------	-----------------	-----------------------	-----------------------

3. 取組 目的	ゼロメートル地帯という脆弱な状況の人々の強靱性を高める気候変動適応策である官民連携の「流域治水」のSDGs達成貢献が理解される。	4. 関連する ゴール	
---------------------	--	------------------------	---

5. 取組経緯

荒川下流河川事務所は2021年2月に運営方針を策定し、「みんなで一緒にあらかわろう！（ARAKAWA TRANSFORMATION）」をスローガンに、荒川に触れ合うすべての人が荒川に関心を持ち、「荒川」と荒川に関わる「まち」と「ひと」がともにウェルビーイング（健康）な状態へ変容していくこと（トランスフォーメーション）を皆様とともに目指すことを宣言し、その推進の3つの柱として、SDGs、DX、ミズバ・グリーンコミュニティ（グリーンインフラ）を設定した。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

荒川下流域で取り組む「流域治水×SDGs」の一環で、水災害にも強い持続可能な社会の発展に貢献する官民連携によるインフラ整備・管理のSDGs達成貢献を多くの人に知ってもらうため、工事現場から情報発信を行った。

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

水害リスクの高い脆弱な状況の人々の強靱性を高め、気候変動への適応を、流域のあらゆる関係者と取り組む「流域治水」について、SDGs貢献の視点から理解・共感を得ることで、地域の担い手である建設業の持続可能性を確保し、あらゆる関係者の主体的な防災減災への行動変容を促進。

ステークホルダーとの連携

荒川下流河川事務所（河川管理者）のプロジェクトのSDGsレポートを作成し、プロジェクト関係者をSDGsパートナーとして示すことで、関係する施工会社が独自に実施する女性技術者の活躍や浚渫土による漁場整備などの海の豊かさを守る取り組みなども組み合わせてSDGs達成貢献をPRできた。

モデル性・波及性

「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」を活用することで「流域治水」によるSDGs貢献が多くの関係者で理解され、官民連携して情報発信していくことで、全国の流域であらゆる関係者で取り組む「流域治水」へ展開していくことが期待される。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

流域治水×SDGs

1. 普遍性

全ての流域で流域治水の行動を

2. 包摂性

洪水に対して「誰一人取り残さない」防災減災を

3. 参画性

流域のあらゆる関係者が役割を持つ（マルチステークホルダーパートナーシップ）

4. 統合性

流域アプローチで統合的に経済・社会・環境の課題解決に取り組む

5. 透明性

流域治水プロジェクトの進捗を流域治水協議会を通じて、定期的にフォローアップ



官民連携による情報発信



YouTube



工事看板



Twitter

【取組に関連するホームページ等】

荒川下流河川事務所ホームページ

<https://www.ktr.mlit.go.jp/arage/>

荒川下流河川事務所YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/user/arakawakaryukasen>

荒川下流河川事務所Twitter

https://twitter.com/mlit_arakawa_ka

荒川下流SDGsレポート&SDGsパートナーズ

SDGsパートナー わたしたちは、荒川下流域において持続可能な川づくり、まちづくり、ひとづくりの取組をともに推進します 2021年9月16日現在 荒川下流河川事務所

首都圏大規模水害から街を守る治水対策

大規模地震から街を守る治水対策

https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000804612.pdf

【取り組みによって得られた成果】

- SDGsの情報発信によりSDGsを職場内に浸透させることができた。
- SDGsの取組みを知った地域の中学校から、職場体験の依頼があった。
- 地域住民へSDGs活動情報の投函や現場掲示物の掲載でコミュニケーションを図っていることを知った地元の自治体や自治会長より評価を頂き、HPへの掲載と区民ニュースの取材及び動画を掲載をさせていただいたとの依頼があった。

【今後の取組みや方向性】

- SNSなどの情報発信のほかに「インフラツーリズム」等の体験型の機会を組み合わせるなど多くの情報を地域に発信することにより、流域治水の「見える化」を進め、地域に安全安心を届けると共にあらゆる関係者による防災減災の行動変容を促進していきたい。